

「インパクト投資に関する勉強会」について

一般財団法人社会変革推進財団（SIIF）
エグゼクティブアドバイザー 安間 匡明
2022年10月28日

- 2020年6月より、インパクト投資に関する金融市場関係者と行政の理解を深め、国内外の社会課題解決に向けたインパクト投資への取り組みの意義と課題を議論する勉強会を10回開催。2021年9月にフェーズ1を取りまとめ、2022年3月よりフェーズ2開始

フェーズ1

[第1回「インパクト投資の基本」](#)

[第2回「インパクト投資に関する主要な論点整理」](#)

[第3回「インパクト評価」](#)

[第4回「非上場株式を通じたインパクト評価」](#)

[第5回「上場株式・債券を通じたインパクト評価」](#)

[第6回「融資を通じたインパクト投資と地域金融」](#)

[第7回「第一フェーズの到達点と今後の課題」](#)

フェーズ2

[第1回「インパクトタスクフォースについて」](#)

[第2回「アセットオーナーとインパクト投資について」](#)

[第3回「経団連のインパクト指標について」](#)

座長：高崎経済大学 水口剛学長 兼 経済学部教授

副座長：金融庁 池田賢志 CSFO

委員：金融機関、企業、経済団体、コンサル等
40社

主要な議論のポイント

1. なぜインパクト投資を行うのか
2. インパクト投資を行ってよいのか
3. ESG投資との相違点
4. インパクト測定・マネジメント（IMM）を行う理由
5. IMMの在り方
6. IMMの質とコスト
7. アセットクラスごとの共通点と相違点
8. 我が国アセットオーナーの意識
9. グローバルな潮流との連携と我が国独自性
10. インパクト投資に関する官民連携

1. インパクト創出と経済的リターンが相関している好事例の情報共有・発信

インパクト投資を投資家が積極的に評価し、これも踏まえて企業側もインパクト評価を実施・開示し、それらが評価されるという好循環をつくるためには、好事例についての情報共有・発信が必要である

2. 投資可能な案件の増加、また多様なプレーヤーを呼び込む仕組みの検討

海外ではアセットオーナーや個人投資家のインパクト志向の強さが広く認識されているが、日本では依然としてインパクト投資の認知度が低いため、認知度を高め理解を促進していく必要がある。また、インパクト投資という言葉を用いていないものの環境や経済社会の持続可能性への貢献の意図を持つ投資は増えており、連携の可能性を検討可能

3. アセットクラス毎の議論の深化

IMMなどのインパクト投資手法の発展度合いや求められる内容はアセットクラス毎に異なるため、インパクト投資の実務をより進化させていくために、国際的なフレームワークや方法論を取り入れつつ、具体的な実務に落とし込んだ好事例をアセットクラス毎に共有していくことが必要。IMMを円滑に実施するために必要な環境整備のあり方についても議論が必要

4. 国際的な議論への参画や官民連携の推進

インパクト投融資に関する様々な指針・フレームワーク・指標等について最新の議論が国際的に進展しており、日本の金融機関も実務者レベルで主体的に参加／情報収集し、日本のインパクト投資市場に関する情報を海外に発信したり、ルール作りに積極的に参画していくことが重要。政府や自治体との官民連携の推進（ファイナンス・スキームの開発等）も必要